

**平成29年度**

**全国学力・学習状況調査(29.4.18実施)**

**結果と考察**

青森市立大野小学校 第6学年

平成30年1月

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果と改善の方向

青森市立大野小学校

1 調査実施日 平成29年4月18日(火)

2 実施児童数 第6学年 92人

3 平均正答率 (%)

調査教科	本校	本県	全国	全国との差
国語A(主として知識)	82	79	74.8	+7.2
国語B(主として活用)	66	59	57.5	+8.5
算数A(主として知識)	88	80	78.6	+9.4
算数B(主として活用)	57	48	45.9	+11.1

国語A：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。

国語B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。

算数A：基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。

算数B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。

## 4 調査結果の概要

## (1) 国語

国語A・Bともに、すべての領域・観点において、県及び全国平均を上回っている。小問ごとにみると国語Aで4問が県平均を、国語Bでは1問が県及び全国平均を下回っている。

国語Aでは、学習指導要領の領域別でみると「話すこと・聞くこと」(評価の観点別では「話す・聞く能力」)が全国比+15.6%と最も上回っている。また、問題形式別にみると、短答式が全国比+5.7%に対して選択式が全国比+9.0%と高くなっている。

国語Bでは、学習指導要領の領域別でみると「書くこと」(評価の観点別では「書く能力」)が全国比+13.1%と、最も上回っている。また、問題形式別では選択式全国比+6.0%、短答式+2.5%に対して、記述式が+15.5%と大きく上回っている。

※設問数 国語A→15問 国語B→9問

## (2) 算数

算数A・Bともに、すべての領域・観点において、県及び全国平均を上回っている。また、小問ごとにみても、算数A・Bともすべて県及び全国平均を上回っている。

算数Aでは学習指導要領の領域別でみると「量と測定」が全国比+14.9%と最も高くなっている。評価の観点別でみると「数量や図形についての技能」が全国比+9.7%、「数量や図形についての知識・理解」が+8.7%と大差はない。また、問題形式別にみると、短答式が全国比+10.2%で、選択式全国比+8.0%よりやや高くなっている。

算数Bでは、学習指導要領の領域別でみると「量と測定」が全国比+18.2%、評価の観点別でみると「数学的な考え方」が全国比+12.7%と最も大きく上回っている。また、問題形式別にみると、選択式全国比+6.4%、短答式全国比+9.3%に対して

記述式が全国比+15.6%と大きく上回っている。

※設問数 算数A→15問 算数B→11問

## 5 課題と改善の方向

### (1) 国語

#### ◆学習指導要領の領域別の課題

- 「話すこと・聞くこと」
  - ・目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。
- 「書くこと」
  - ・手紙の構成を理解し、後付けを書く。
  - ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
- 「読むこと」
  - ・俳句の情景を捉える。
  - ・自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。
  - ・物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
  - ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。

#### ◆指導改善のポイント

##### 話すこと・聞くこと

- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す指導の充実
  - ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話すためには、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができるようにする必要がある。話の構成や内容を工夫するためには、自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、結論付けを明確にしたりすることなどについて指導することが大切である。また、場に応じた適切な言葉遣いで話すためには、声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について指導することが大切である。
  - ・話し言葉には、発せられた途端に消えていくという特質や、聞き手の反応やその場の状況などの影響を強く受けながら理解されたり表現されたりするという特質がある。こうした特質を踏まえた上で、自分の考えが伝わるように話すことができているか振り返ることができるように指導することが大切である。また、相手の反応に応じて、思考を働かせながら話すことができるように指導することが大切である。

##### 書くこと

- 実用的な文章としての手紙を書く指導の充実
  - ・実生活においては、依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を書くことが求められる。手紙を書く相手や目的を明確にしなが、書く事柄を整理し、構成することができるように指導することが大切である。その際、手紙の基本的な形式とともに手紙の形式がもつ意味について指導することが大切である。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く指導の充実
  - ・読み手に自分の伝えたいことが分かるようにするため、具体的な事実を基にした、複数の内容を関係付けたりして必要な内容を整理して書くことは重要である。

目的や意図に応じて、取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、その中から、具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導することが大切である。

### 読むこと

- 物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする指導の充実
  - ・物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにすることは重要である。そのために、自分の考えが、どの叙述に基づいているか、自分の経験などとどう結び付いているのかを明らかにしながら伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるように指導することが大切である。さらに、互いの考えの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが大切である。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる指導の充実
  - ・叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことが重要である。さらに、高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写などを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で適切に漢字を使う指導の充実
  - ・各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるようにするためには、漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導することが大切である。また、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが重要である。

## (2) 算 数

### ◆学習指導要領の領域別の課題

- 「数と計算」
  - ・問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる。
  - ・料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。
  - ・直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる。
- 「量と測定」
  - ・仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる。
- 「図 形」
  - ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる。

○「数量関係」

- ・示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる。
- ・割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる。

◆指導改善のポイント

数と計算

- 問題を解決する過程で、「計算の意味」と「計算の仕方」を関連付けて、計算の能力を身に付けることができるようにする指導の充実
  - ・整数、小数及び分数の計算においては、計算の意味と計算の仕方を、図や数直線などを用いて関連付けながら考察し、説明できるようにすることが大切である。また、日常生活の事象と関連付けた場面を設定できるように単元の計画を工夫し、計算に習熟したり生活や学習に活用したりすることができるようにすることも大切である。
- 日常生活の問題の解決のために、必要な情報を選択したり、示された方法を数学的に解釈し、問題場面に適用できるか考察し判断したりする指導の充実
  - ・日常生活の問題の解決のために、必要な情報を収集した上で条件に合うものを選択したり、示された方法を数理的に捉えて数学的な意味を見いだし、問題場面に適用できるか考察し判断したりすることができるようにすることが大切である。また、問題の解決のために用いた方法を、日常生活の場面に戻って振り返ることで、算数が役立っていることを実感できるようにすることも大切である。

量と測定

- 異なる量の比較や測定においても、共通する比較や測定の方法が用いられていることを実感的に理解できるようにする指導の充実
  - ・量の比較や測定においては、比較や測定の方法のよさを理解し、新たに学習する量の比較や測定に活用できるようにすることが大切である。また、異なる種類の量の比較や測定においても、共通する比較や測定の方法が用いられていることを実感的に理解できるようにすることも大切である。
- 日常生活の問題の解決のために、データを処理する方法を適切に用いて判断したり、工夫してデータを処理するよさを実感したりすることができるようにする指導の充実
  - ・実験結果の測定値としていくつかの数量があったとき、それらの数量の平均を求めることでより妥当な数値が得られる場合がある。その際、飛び離れた数値や予想外の数値があった場合に、場面や状況によっては、それらの数値を除き、目的に応じた平均を求めることができるようにすることが大切である。また、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、基準を変えて計算することで、測定値の平均を工夫して求めるよさを実感したりすることができるようにすることも大切である。

図形

- 図形の構成・分解の活動を通して、図形の性質について理解を深めることができるようにする指導の充実
  - ・図形の学習においては、図形の性質を実感的に理解できるようにすることが大切である。そのために、単なる知識として図形の性質を指導するのではなく、構成・分解などの活動を通して、図形の性質を見いだしたり振り返ったりすることで、その

性質の理解を深めることができるようにすることが大切である。

○図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察する指導の充実

- ・立体図形と見取図、展開図を関連付け、構成要素やそれらの位置関係に着目して、立体図形の構成の仕方を適切に捉えることができるようにすることが大切である。立方体や直方体などの立体図形の学習では、向かい合う面が平行になることや、隣り合う面が垂直になることを、具体物の観察や操作を通して実感的に理解できるようにすることが大切である。

### 数量関係

○数量の関係を一般化して捉え、言葉や式を用いて表現する指導の充実

- ・算数の学習では、児童自らがどのような数量の関係が成り立つのかを予想したり、数値や場面を変えても同じように関係が成り立つかどうかについて考えたり、なぜそのような関係が成り立つのかを図を用いて説明したりすることができるようにすることが大切である。さらに、見いだした数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現できるようにすることが大切である。

○日常生活の事象を、割合や表、グラフなどを活用して考察する指導の充実

- ・日常生活の中には、算数で学習した内容を基に数理的に処理し合理的に判断できる場面がある。日常生活の事象を、児童にとってより身近なものなどに置き換え、割合を活用して考察したり、表や図、グラフに表して捉え、そこから見いだすことができる特徴や傾向を基に考察したりすることができるようにすることが大切である。